

「言葉による見方・考え方」を働かせ「資質・能力」を育成する単元構想—「深い学び」の鍵—

【小学校学習指導要領（平成29年告示）解説国語編P.11-12】
 1 教科の目標
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する**資質・能力を育成**することを目指す。…中略…
言葉による見方・考え方を働かせるとは、児童が学習の中で、**対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること**であると考えられる。

国語科の「お願い」と「お礼」の手紙を書く学習を単元として構想するために、社会科との教科横断的な視点での単元構想を行った。社会科で高知県内のさまざまな市町村のおすそめを紹介するために、国語科で資料や情報を送ってもらうように「お願い」の手紙を書き、頂いた資料でリーフレットを作成し、活動のまとめに「お礼」の手紙を書くように単元を構想した。

2回「手紙を書く」という言語活動を設定するに当たって、以下の二点を留意点とした。
 ① **実用的な文章**である「手紙」の学習は、小学校では2年生から始まり、4年生で一旦完結する。次に学習するのは、中学校2年生になってからという系統にある。そこで、小学校での実用的文章である「手紙」を書く学習の仕上げとして、これまでのように身近な人や地域の方ではなく、顔も知らない会ったこともない、かつ、**オフィシャルな相手に「手紙」を書くという社会につながる設定**とした。

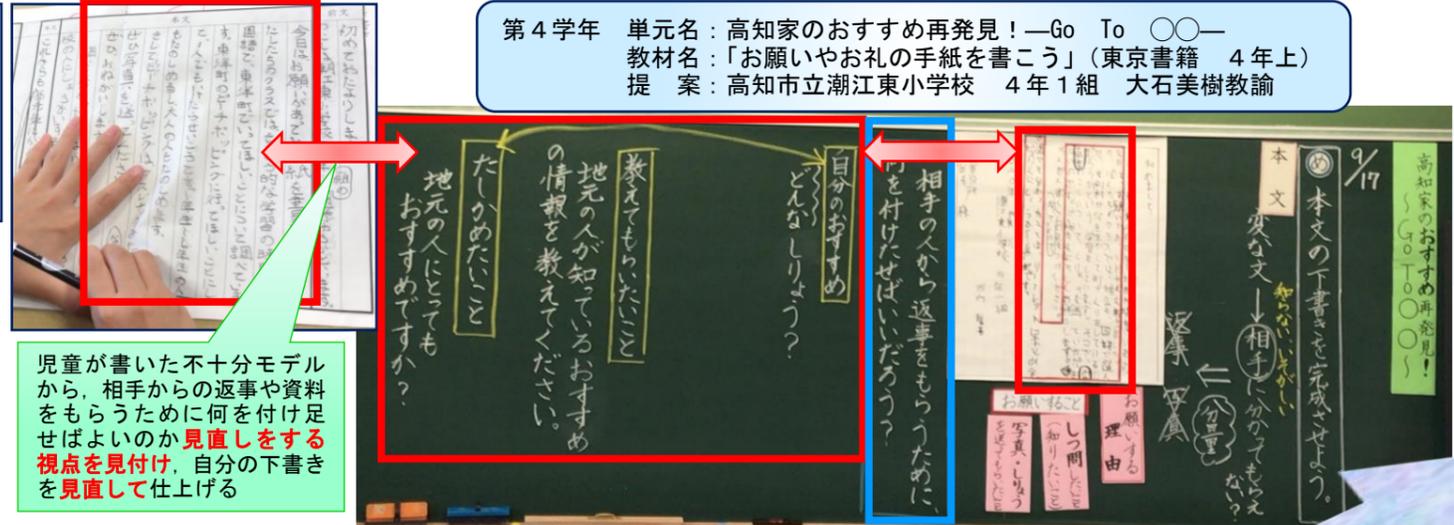
② 4年生は、これまでのように一方的に届ける手紙ではなく、「お願い—返事—お礼」と学習がつながっており、相手との**やり取りが重要**になってくる。そこで、単元全体でも本時でも、相手の方から「返事をもらえるにはどのように書いたらよいか」ということを常に**相手・目的意識**において、書くことに取り組んだ。

教科書教材から掴んだ手紙の本文で「お願いすること」と、自分が書いた下書きの本文を**比較し**、相手をお願いすることが伝わるために、必要なことが書けているか**吟味・検討**する

教科書教材の「お願いの手紙」の本文に書かれた内容と、自分たちが書こうとする**お願いの手紙に必要な内容**とを**関係付け**、自分たちの手紙の本文に必要な事柄を考える

「手紙」と他の伝達媒体のよさを**比較し**、自分たちの**目的と関係付け**、最適な言語活動を判断する

第4学年 単元名：高知家のおすそめ再発見！—Go To ○○—
 教材名：「お願いやお礼の手紙を書こう」（東京書籍 4年上）
 提案：高知市立潮江東小学校 4年1組 大石美樹教諭



四時間目・本時

【自分で書いた下書き】

児童が書いた不十分モデルから、相手からの返事や資料をもらうために何を付け足せばよいか**見直しをする**視点を見付け、自分の下書きを見直して仕上げる

三時間目

【自分で書いた下書き】

教科書教材から掴んだ手紙の本文で「お願いすること」と、自分が書いた下書きの本文を**比較し**、相手をお願いすることが伝わるために、必要なことが書けているか**吟味・検討**する

二時間目

教科書教材の「お願いの手紙」の本文に書かれた内容と、自分たちが書こうとする**お願いの手紙に必要な内容**とを**関係付け**、自分たちの手紙の本文に必要な事柄を考える

【明示的指導の可視化を繰り返す】
 子供たちが、授業において「言葉による見方・考え方」を働かせて成長を実感的につかんでいくためには、その**動きや必要性やよさなどを板書に可視化**させて指導することを繰り返すことが重要！

一時間目

授業者の感想【大石美樹教諭】

○ 子供たちの「言葉による見方・考え方」を鍛えるために、授業者は意図的に文章と文章を「**比較」「整理**」するなどして**関係付けたり吟味・検討し合ったり**して、着眼点を明確にすることが必要である。そして、それが可視化できるよう、板書にも**関係性を示す**ように心掛けた。（カード化・矢印・表など）
 ★ 「書く」活動は、子供たちにとって根拠のある学習であり、個人の書く力や意欲の差も大きい領域である。まず、「これではまだだめだ」「もっと～したい」と子供自身が**気づき困り感をもつ場**を設定し、「書く」目的や必要性を明確にする必要があった。また、毎時間、書くものが仕上がっていく実感・自分の書く力が高まっていっている実感を**メタ認知**できるようにBefore⇔Afterの**変容**の示し方が弱かった。変容が、一目で見える板書・ノートの可視化も工夫する必要があった。

【子供の学びを少しずつ子供に任せていく授業づくり】
 — 子供に任せていくプロセス・手段を用意する —

○学びの過程 ← ○いかに学び進んだか <言語活動のプロセス> → ○明示的指導

それで？ いいの？ それから？ へえ？ など

いざなう言葉で能力を引き出す

言語活動を通して言語化させる

価値・必要性など

実感させる ↓ 子供自身で取り組む

能力を可視化する

単元で育成したい「資質・能力」

【学びに向かう力、人間性等】
 ○伝えたいことを相手に伝えることができる手紙のよさに気づき、目的に合わせて相手の心を動かすことができる**お願いやお礼の手紙**を書いて伝えようとする力

【知識及び技能】
 (1) キ言葉遣い
 ○丁寧な言葉を使うとともに、敬遠に注意しながら書くことができる力

【思考力、判断力、表現力等】
 B書くこと イ構成の検討
 ○書く内容の中心を明確にし、手紙の形式に沿って構成を考えることができる力
 B書くこと エ推敲
 ○書く相手や目的に照らして、構成や書き表し方が適切かどうかを確かめることができる力

【「書写」の時間とカリ・マネした手紙の清書指導】

【実際に書いて送ったお願いの手紙】

高知市立潮江東小学校 四年一組

仁淀川町役場 高知市立潮江東小学校 四年一組

【実際に送って頂いた手紙や資料】

送って頂いた資料は、国語科の『ふるさとのおたから』を伝えようのリーフレット作成に活用

作成したリーフレットも入れて「お礼」の手紙を書く

【言語活動が学びのエンジンとなる】
 子供たちが自ら学ぼうとするエンジンとなる。回すために、言語活動が**社会生活とリアル**につながり、**実現可能であること**に留意した！

高知市教育委員会事務局 学力向上総括専門官 (島根県立大学教授) 齊藤一弥先生の指導・助言